

鶴見川整備事業

(町田市関師町字七号～町田市関師町字二号)

令和6年10月8日(火)

建設局河川部

目次

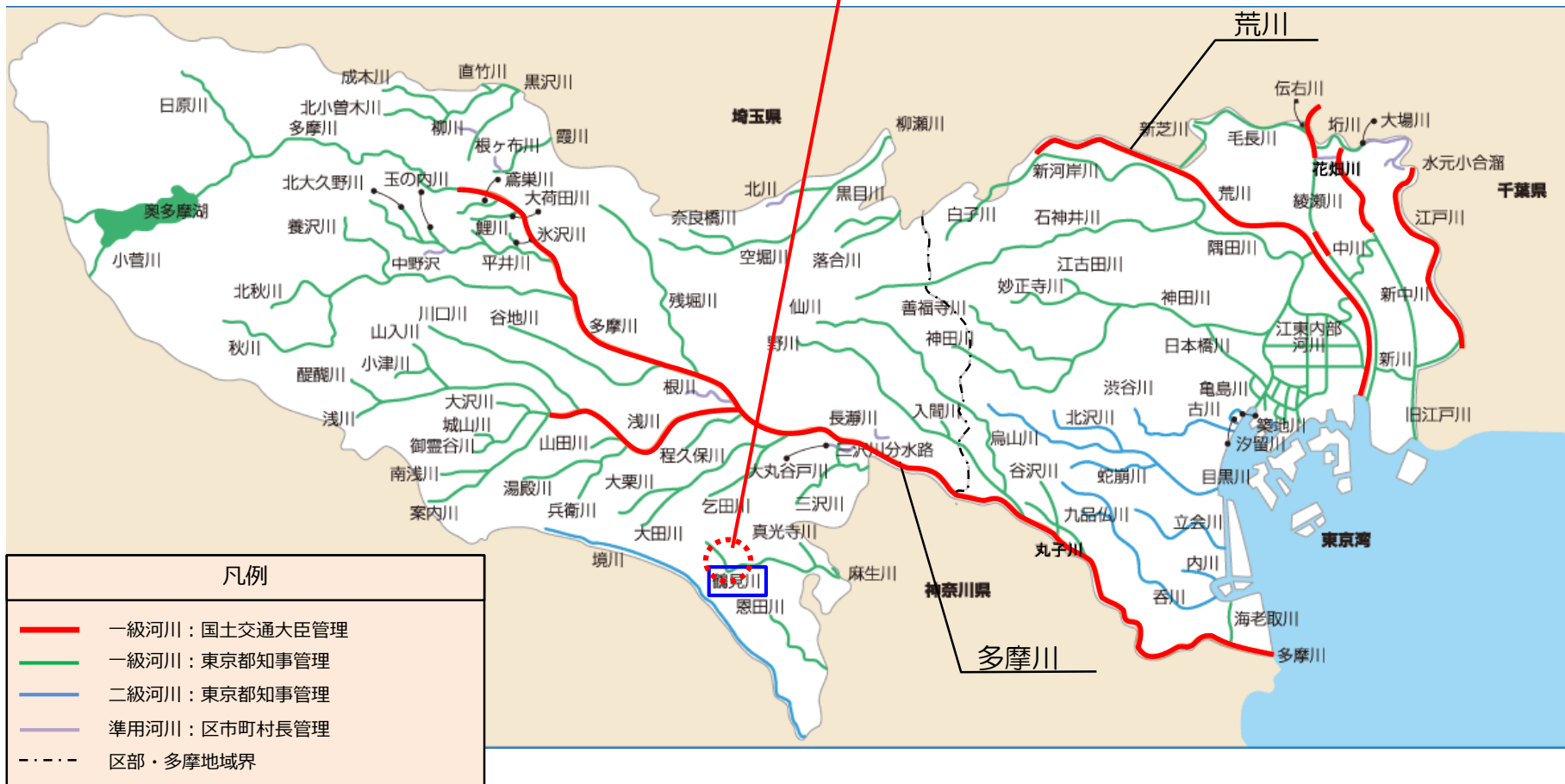
1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	6
3. 事業の投資効果	8
4. 事業の進捗状況	10
5. 事業の進捗の見込み	12
6. コスト縮減等	13
7. 対応方針(原案)	14

1. 事業概要

位置図




【事業評価区間】

町田市凶師町字七号～町田市凶師町字二号



1. 事業概要

流域図

凡例	
	河川
	流域界
	流域界 (都内)



さかした
坂下橋下流側



かすが
春日橋上流側



しょうじんば
精進場橋下流側



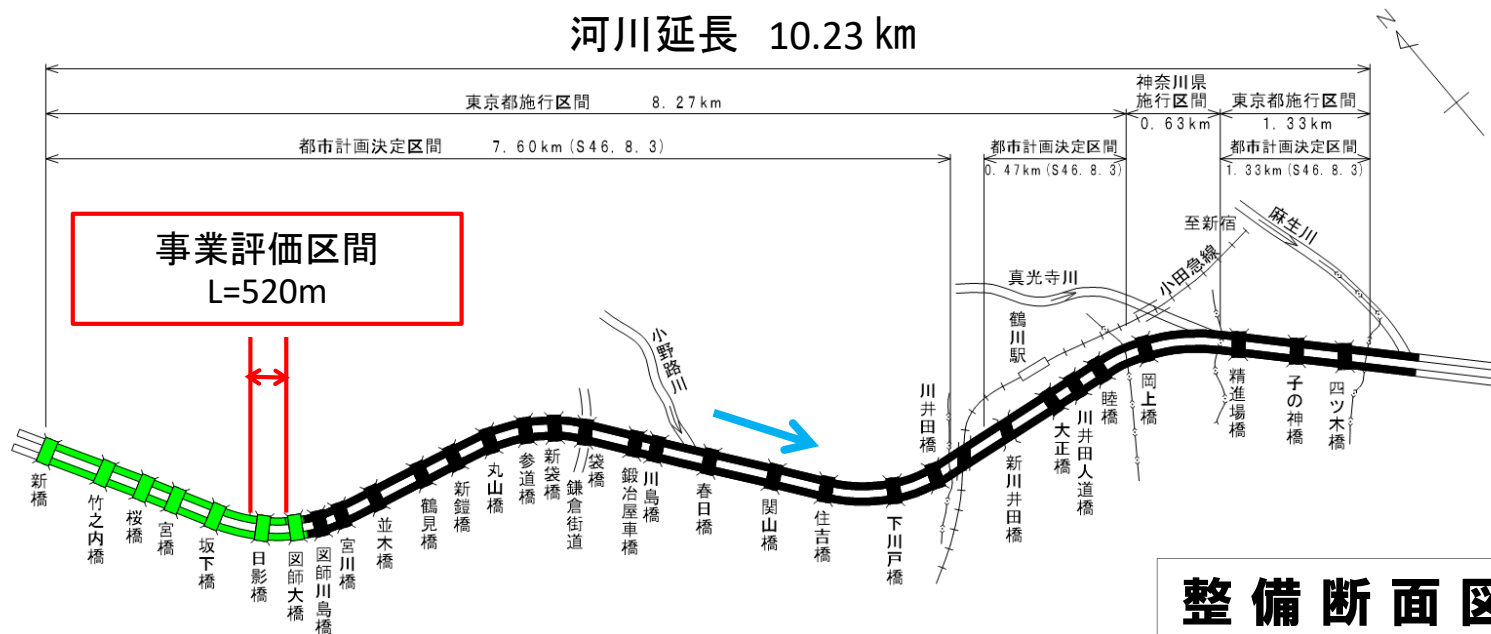
流域面積 (全体)	: 235km ²
(都管理区間)	: 31.5km ²
河川延長 (全体)	: 42.5km
(都管理区間)	: 12.8km
(都市計画延長)	: 9.4km)

1. 事業概要

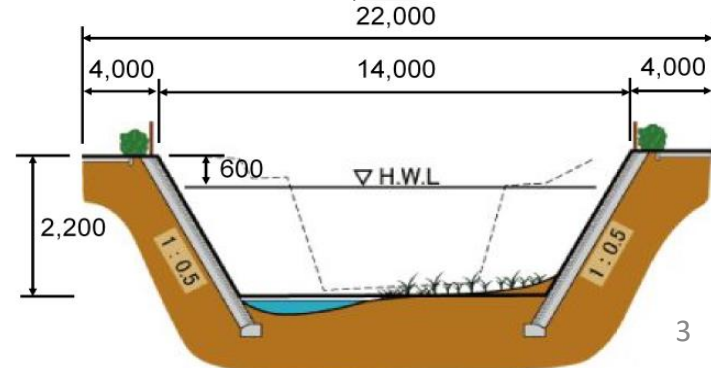
1時間あたり50ミリの降雨に対応する護岸整備を行い、洪水による水害の危険から都民の生命と暮らしを守るとともに、豊かで清らかな水環境の保全・創出を図っている。

整備状況図

河川延長 10.23 km



整備断面図



凡例	
整備済	■
未整備	■

護岸整備率 約77% (令和5年度末時点)

1. 事業概要

整備イメージ



川幅が狭く、蛇行しており流下能力が不足
河川に近づける空間がない



河道の拡幅及び掘下げによる流下能力の向上



多自然川づくりや緩傾斜護岸の整備により良好な水辺空間を形成

1. 事業概要

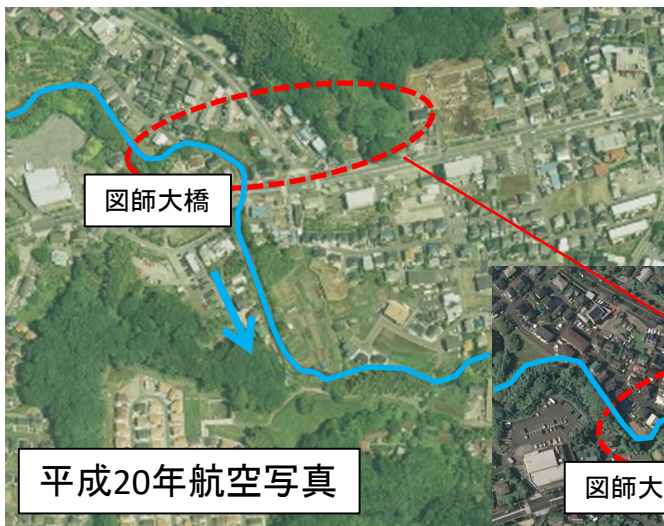
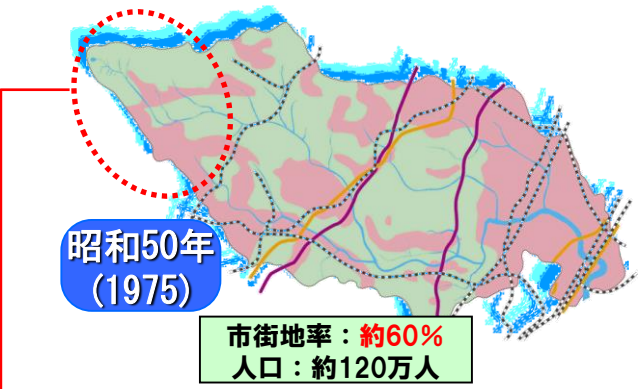
経緯

年度	計画等
昭和46年	都市計画決定(当初)
平成18年	河川整備計画 策定
平成30年	事業認可(当初) 平成30年度～令和6年度
令和6年度	事業認可(変更予定)

2. 社会経済情勢等の変化

土地利用状況の変化

市街地 自然地



事業評価区間周辺においても、近年開発が行われている。

- 昭和30年代は主に、神奈川県内での市街化が進展。
- 昭和50年代に入ると東京都、神奈川県全域で市街化の進展が急激に進み、平成25年時点流域の市街化率は約86%となっている。
- 今後も市街化が進む傾向であり、雨水流出の増加が見込まれる。

2. 社会経済情勢等の変化

過去の水害実績（東京都管理区間）

年月日	洪水要因	浸水面積 (ha)	浸水家屋数 (棟)		被害額 (千円)	原因
			床下	床上		
平成3年9月18～20日	台風18号	0.23	14	17	116,722	内水
平成10年7月30日	集中豪雨	0.26	11	2	48,948	内水
平成20年8月28日	集中豪雨	1.7	18	10	182,050	内水※

※記録上は内水となっているが、現地にて溢水の痕跡を確認している



平成20年8月末豪雨
(宮川橋上流溢水箇所)



平成20年8月末豪雨
(図師大橋上流溢水箇所)

3. 事業の投資効果

定量的効果【費用対効果分析】

【河川改修事業に関する総便益（B）】

河川改修事業に係る便益は、整備により効果が見込まれる本区間上流流域において、家屋、農作物、公共施設等に想定される被害に対して、年平均被害軽減額を「治水経済調査マニュアル(案)令和6年4月国土交通省水管理・国土保全局」に基づき計上

被害軽減効果①	約212.5億円
残存価値②	約4.6億円
総便益(①+②)	約217.1億円

- 現在価値化総便益額（B）
約217.1億円の便益が発生

【河川改修事業に関する総費用（C）】

河川改修事業に係る費用は、本区間より上流端までの工事費、用地補償費及び維持管理費を計上

工事費①	約31.2億円
用地補償費②	約94.4億円
維持管理費③	約15.1億円
総費用(①+②+③)	約140.7億円

- 現在価値化総費用額（C）
約140.7億円の費用が発生

【費用便益比（B/C）】

$$B/C = \frac{\text{便益の現在価値化の合計} + \text{残存価値}}{\text{建設費の現在価値化の合計} + \text{維持管理費の現在価値化の合計}} = 1.5$$

3. 事業の投資効果

定性的効果 【内水被害軽減】

河川改修により下水道の整備が一層促進されるため、河川沿いの浸水被害だけではなく、流域内の内水被害軽減に寄与する。

定性的効果 【親水性の向上】

河川沿いに整備する管理用通路は歩行者へ一般開放しており、遊歩道としての利用により回遊性の向上が期待でき、うるおいのある水辺空間を身近に感じることができる。



遊歩道整備(丸山橋上流)



親水護岸整備(参道橋下流)

4. 事業の進捗状況

事業費の執行状況

令和5年度末時点

	用地費	工事費	合計
全体事業費	844百万円	1,134百万円	1,978百万円
執行済額	399百万円	79百万円	478百万円
執行率	47%	7%	24%

用地取得状況

令和5年度末時点

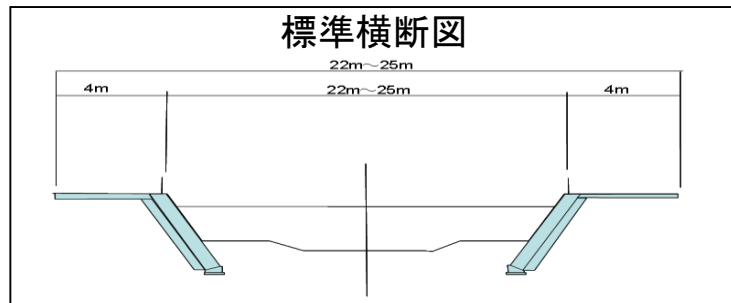
取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B / A)
3,285 m ²	2,001 m ²	61%

4. 事業の進捗状況

事業の進捗状況等



- 工事の進捗率
令和5年度着手
令和5年度末までの護岸整備率約1%
(全体延長520mのうち7m整備済み)



- 残事業
 - ・ 用地取得 1,284m²
 - ・ 護岸整備 513m
 - ・ 橋梁架け替え 1橋

5. 事業の進捗の見込み

一定期間を要した背景等

- 小売店舗や戸建住宅が建ち並んでおり、計画線の状況から、高低差処理や、一部の敷地が現況河道と整備後の河道との間に取り残されてしまう画地が複数発生するなどし、その調整のために用地折衝に時間を要している。

今後の事業の進捗見込み

- 順次、護岸改修工事を進めていき、工事予定を踏まえ、未取得用地の権利者との折衝においては、事業の必要性、水害の危険性を十分に説明し、早期の用地取得に向けて折衝を進めていく。
- 用地取得後速やかに護岸整備工事に着手できるよう、引き続き準備を進め、用地取得後は護岸整備が順調に進む見通しである。

6. コスト縮減等

代替案立案等の可能性

- 現時点では、新工法の採用や、事業手法及び施設規模の見直しの可能性はないと考えている。
ただし、水辺環境や生態系などへの影響には留意して整備していく。

コスト縮減の取組

- 発生土を旧川の埋戻や他工事現場へ再利用することにより処分費用を減ずる等、旧川整備工事や他工事と連携を行いながらコスト縮減に努めていく。

7. 対応方針(原案)

- 鶴見川は流域全体の急激な市街化が進んでおり、局地的な集中豪雨等に伴う浸水被害が頻発していることから、さらなる水害への対策が不可欠であり、治水上の安全性を早期かつ確実に向上させる必要がある。
- 河川整備においては、豊かで清らかな河川環境及び生物多様性の保全・創出も求められている。



鶴見川では、治水上の安全性を早期かつ確実に確保するとともに、河川環境の向上に努めた川づくりを進めていくため、現計画に基づき事業を促進することが必要である。

継 続